



平成30年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年10月13日

上場会社名 ネオス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3627 URL <http://www.neoscorp.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 昌史
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 黒尾 哲雄 TEL (03)5209-1590
 四半期報告書提出予定日 平成29年10月13日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第2四半期の連結業績 (平成29年3月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第2四半期	2,491	△4.8	△40	—	△71	—	△72	—
29年2月期第2四半期	2,616	△5.5	△189	—	△223	—	△285	—

(注) 包括利益 30年2月期第2四半期 △208百万円 (-%) 29年2月期第2四半期 △288百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第2四半期	△8.45	—
29年2月期第2四半期	△33.45	—

30年2月期第2四半期連結累計期間及び29年2月期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年2月期第2四半期	4,294	2,507	57.7	274.32
29年2月期	4,184	2,501	59.2	289.23

(参考) 自己資本 30年2月期第2四半期 2,479百万円 29年2月期 2,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	0.00	—	1.50	1.50
30年2月期	—	0.00	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	1.50	1.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想 (平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	4.0	50	—	50	—	40	—	4.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

現在、モバイル、インターネット業界は、非常に速いスピードで構造変化が進行しつつあり、短期的な業績動向については変動要素が多いため、当社では、年間ベースでの業績管理に重点をおいた経営管理を強化しています。これらを踏まえ、現在、当社グループの業績予想については、連結業績に関する年間業績の開示のみとしております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年2月期2Q	9,038,300株	29年2月期	8,558,900株
② 期末自己株式数	30年2月期2Q	一株	29年2月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年2月期2Q	8,581,749株	29年2月期2Q	8,548,651株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況等の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（自平成29年3月1日 至平成29年8月31日）における日本経済は、雇用情勢の改善などにより、4月～6月期のGDPが0.6%（年率換算2.5%）の伸びとなり、緩やかながらも堅調に推移しております。しかし、グローバルでは北朝鮮を取り巻く緊迫した情勢が続いており、先行きへの不安感を拭えない状況にあります。

このようななかで、衆議院選挙が10月22日に実施されることになり、政策論争では、教育や子育て、働き方改革などがクローズアップされる流れにあり、それらの実現に向けた取り組みが拡大していくものと予想されます。こういった背景において、AI（人工知能）やIoT（Internet of Things）に代表される新たな技術を駆使したICT（Information Communication Technology）の活用は、今後多様な領域で、さらに浸透していくと思われま

す。社会システムが急速に変容しつつあるなかで、当社グループにおいては、AIやIoT等の先端技術開発に注力しており、様々なパートナーとこれを活用したサービス開発に取り組んでいます。AIの領域においては、株式会社空色のWeb接客ソリューション【OK SKY】と当社の画像認識AIならびにチャットボット開発基盤を融合した新たな接客システムの開発や、スマートホテル（IoT体験型宿泊施設）を展開しているand factory株式会社に「食事画像認識AI」を提供するなど、当社の技術を活用したサービスの実現を推進しています。IoTの取り組みに関しては、子どもへの知育コンテンツの提供と親のスムーズな買い物を両立できるIoT機器「スマートキッズカート」を試作し、三井ショッピングパーク「ららぽーと」において、実証実験を実施しました。また、米国のFitbit、Misfitやオムロン株式会社等の活動量計と連携してウォーキングによる健康管理を実現する歩数計アプリ「Renobody」を使った、企業や健康保険組合、自治体の健康増進をサポートする法人向けサービス事業を開始しました。

こういった先進領域における技術開発やサービス開発に積極的に取り組む一方で、現行事業においては、企業等の活発なICT活用を背景にエンタープライズソリューション事業が順調に推移しました。現行事業においては、コストダウンや収益案件へのシフト等による収益性の改善にも積極的に取り組んでおり、総利益率において、前年同期比5%の改善を実現しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,491,649千円（前年同期比4.8%減）、営業損失40,646千円（前年同期は営業損失189,014千円）、経常損失71,778千円（前年同期は経常損失223,984千円）、純損失72,552千円（前年同期は純損失285,959千円）となりました。

事業別の詳細については以下の通りです。

<エンタープライズソリューション事業>

当第2四半期連結累計期間におけるエンタープライズソリューション事業の連結売上高は、1,401,371千円となりました。

エンタープライズソリューション事業においては、企業やネットサービス事業者などのICT活用の旺盛な需要に応えるべく、積極的な営業展開を推進しており順調に推移しております。サービスジャンルとしては、音楽・映像等のメディアサービス、製薬会社、クリニック等のメディカル・ヘルスケアを中心に、保険、銀行等の金融サービス、航空、不動産等多岐に広がりつつあります。当事業では、企業における活発なICT需要に的確に応えるために、企画段階から入ってサービスの最適解を提案し、それを実現する開発から運用までをワンストップで対応できる総合力で事業を推進しております。

<テクノロジープラットフォーム事業>

当第2四半期連結累計期間におけるテクノロジープラットフォーム事業の連結売上高は、429,357千円となりました。

テクノロジープラットフォーム事業においては、今後ますます活用が広がっていくと予想されるAI分野への取り組みを強化しており、具体的にはチャットボットと画像認識の技術開発に注力しています。

当社では、以前からビジネスコミュニケーションの成長性に着目し、アドレス帳やチャットサービスのプロダクト展開に注力しております。なかでもチャットサービスの先進性に向けて、早くから「AI BOT」の技術開発に取り組んできました。最近では、自社のチャットサービスの差別化として提供するのみならず、BOT単体での展開も行っており、業務サービスへの応用やBtoCサービスでの活用を含めて事業拡大を推進しています。また、画像認識AIでは写真に含まれる複数のオブジェクトを同時に認識する画像認識エンジンを開発し、Web接客ソリューションを展開する株式会社空色や、スマートホテル事業を展開するand factory株式会社に技術提供するなど、様々なサービスの実現に取り組んでいます。

<コンテンツサービス事業>

当第2四半期連結累計期間におけるコンテンツサービス事業の連結売上高は、660,920千円となりました。

コンテンツサービス事業においては、教育／キッズ、ヘルスケア領域に注力しております。教育／キッズ分野では、【クレヨンしんちゃん お手伝い大作戦】を開発、NTTドコモが提供している知育サービス「dキッズ」や

「Google Play」「App Store」など複数のマーケットで、積極的に展開を始めています。この結果、「dキッズ」「Google Play」の“親子向け”および“教育”カテゴリで人気ランキング1位を獲得、さらに「App Store」の“子ども向け”カテゴリにおいても、iPadアプリで1位、iPhoneアプリで3位を獲得しました。

ヘルスケア事業においては、これまでコンシューマー向けに展開してきた歩数計アプリ「RenoBody」を、企業や健康保険組合、自治体などが行う健康増進事業に対して提供する法人向けサービス事業の展開を推進しています。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,886,470千円となり、前連結会計年度末に比べ362,688千円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が285,005千円減少したものの、現金及び預金が688,070千円増加したことによるものです。固定資産につきましては、有形固定資産が3,365千円増加したものの、無形固定資産が54,921千円、投資その他の資産が200,407千円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ251,963千円減少し、1,408,529千円となりました。

この結果、総資産は4,294,999千円（前連結会計年度末は4,184,274千円）となり、前連結会計年度末に比べ110,725千円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1,787,375千円（前連結会計年度末は1,683,149千円）となり、前連結会計年度末に比べ104,226千円増加いたしました。これは主に買掛金が91,865千円、賞与引当金が102,467千円減少したものの、1年内返済予定の長期借入金が100,000千円、長期借入金が250,000千円増加したことなどによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,507,624千円（前連結会計年度末は2,501,124千円）となり、前連結会計年度末に比べ6,500千円増加いたしました。これは主に利益剰余金が72,552千円、その他有価証券評価差額金が129,495千円減少したものの、資本金が112,600千円、資本剰余金が99,762千円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、平成29年4月14日の「平成29年2月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,323,048	2,011,118
受取手形及び売掛金	894,272	609,267
仕掛品	65,370	111,027
関係会社短期貸付金	20,000	10,000
その他	229,193	145,078
貸倒引当金	△8,102	△22
流動資産合計	2,523,782	2,886,470
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	76,078	73,679
器具備品(純額)	34,434	40,199
建設仮勘定	1,544	1,544
有形固定資産合計	112,058	115,423
無形固定資産		
ソフトウェア	306,203	468,445
ソフトウェア仮勘定	255,766	41,623
その他	21,282	18,262
無形固定資産合計	583,252	528,331
投資その他の資産		
投資有価証券	719,892	521,652
関係会社株式	13,534	—
関係会社出資金	54,185	49,016
差入保証金	175,687	177,449
その他	29,012	43,787
貸倒引当金	△27,131	△27,131
投資その他の資産合計	965,181	764,774
固定資産合計	1,660,492	1,408,529
資産合計	4,184,274	4,294,999

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	323,277	231,412
1年内返済予定の長期借入金	337,500	437,500
未払法人税等	10,687	11,390
賞与引当金	202,000	99,533
その他	165,846	171,718
流動負債合計	1,039,310	951,554
固定負債		
長期借入金	512,500	762,500
繰延税金負債	79,846	22,331
資産除去債務	38,718	40,217
その他	12,773	10,771
固定負債合計	643,839	835,820
負債合計	1,683,149	1,787,375
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,301,383	1,413,983
資本剰余金	1,291,383	1,391,145
利益剰余金	△289,897	△362,449
株主資本合計	2,302,869	2,442,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	171,846	42,351
繰延ヘッジ損益	△2,420	△6,802
為替換算調整勘定	3,183	1,157
その他の包括利益累計額合計	172,609	36,706
新株予約権	25,645	28,238
純資産合計	2,501,124	2,507,624
負債純資産合計	4,184,274	4,294,999

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
売上高	2,616,445	2,491,649
売上原価	2,018,418	1,794,408
売上総利益	598,027	697,241
販売費及び一般管理費	787,042	737,888
営業損失(△)	△189,014	△40,646
営業外収益		
受取利息	2,975	3,448
その他	763	895
営業外収益合計	3,739	4,344
営業外費用		
持分法による投資損失	22,069	29,549
その他	16,639	5,926
営業外費用合計	38,709	35,475
経常損失(△)	△223,984	△71,778
特別利益		
固定資産売却益	—	608
新株予約権戻入益	5,864	817
特別利益合計	5,864	1,426
特別損失		
減損損失	61,601	—
投資有価証券評価損	2,636	363
特別損失合計	64,238	363
税金等調整前四半期純損失(△)	△282,357	△70,715
法人税、住民税及び事業税	4,245	2,201
法人税等調整額	△643	△364
法人税等合計	3,601	1,837
四半期純損失(△)	△285,959	△72,552
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△285,959	△72,552

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
四半期純損失(△)	△285,959	△72,552
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△417	△129,494
繰延ヘッジ損益	0	△4,381
為替換算調整勘定	△2,464	△2,026
その他の包括利益合計	△2,881	△135,902
四半期包括利益	△288,840	△208,455
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△288,840	△208,455

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△282,357	△70,715
減価償却費	180,607	151,362
減損損失	61,601	—
のれん償却額	5,471	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5,585	△8,080
賞与引当金の増減額(△は減少)	△94,277	△102,466
無形固定資産売却損益(△は益)	—	△608
投資有価証券評価損益(△は益)	2,636	363
持分法による投資損益(△は益)	22,069	29,549
売上債権の増減額(△は増加)	401,076	285,004
たな卸資産の増減額(△は増加)	△39,668	△45,474
仕入債務の増減額(△は減少)	△103,622	△91,864
その他	△23,869	84,926
小計	124,081	231,997
利息及び配当金の受取額	3,894	3,426
利息の支払額	△2,186	△1,254
法人税等の支払額	△6,292	△4,294
法人税等の還付額	—	1,054
営業活動によるキャッシュ・フロー	119,496	230,930
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,916	△13,209
無形固定資産の取得による支出	△307,986	△87,644
無形固定資産の売却による収入	—	810
投資有価証券の取得による支出	△185,500	—
関係会社株式の取得による支出	△500	—
貸付金の回収による収入	10,000	10,000
差入保証金の差入による支出	△31	△4,410
差入保証金の回収による収入	31,093	2,000
その他	—	△7,377
投資活動によるキャッシュ・フロー	△466,841	△99,831
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	500,000
長期借入金の返済による支出	△87,500	△150,000
株式の発行による収入	1,002	224,434
リース債務の返済による支出	△1,148	△2,768
配当金の支払額	△12,498	△12,669
財務活動によるキャッシュ・フロー	199,854	558,996
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,464	△2,026
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△149,954	688,069
現金及び現金同等物の期首残高	1,532,332	1,323,048
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,382,377	2,011,118

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間において、Neos Vietnam International Co., Ltdを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)

当社グループは、情報サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。